

ぎかい



2024.2.1

小国町議会だより 第159号



迎春

表紙関連記事は16ページ



JR米坂線復旧 小国期成同盟会設立

主な内容

- 政策提言 2ページ～
- 一般質問7名登壇 6ページ～
- 委員会活動 14ページ～

小国町議会

ホームページ <http://www.town.oguni.yamagata.jp/gikai/index.html>
e-mail gikai@town.oguni.yamagata.jp

小国町議会

検索



議会は何を提言したか

小国町議会は、令和5年9月29日、町執行部に対して「議員と語る会」等の意見や町民の皆様から届けられた声を踏まえ、議会の総意として10項目について政策提言を行った。

提言 1

「人」づくり 自い森の国を担う

① **地域運営に関する取り組みについて**
地域活力の低下や災害発生時の対応が問題となる中、行政主導による地区運営組織の確立は急務である。早急に行政区域を明確にし、それを示すとともに地域の核となるリーダーの育成を支援すること。

② **保小中高一貫教育の継続と充実について**

小国町独自の教育を取り入れた、白い森学習や更なるキャリア教育の充実を図り、地元就職者を増やす取り組みを行うこと。加えて学校統廃合の方針を早急に明らかにすること。

提言 2

「環境」づくり 自い森の魅力を磨く

① **空き家対策について**
解体に対する町独自の財政支援や有効な活用策等を総合的に検討し、既存する国県の助成制度の周知と合わせ各種の課題解決に努めること。

② **鳥獣被害対策の充実について**

町民への危険防止の啓もう活動や、有害鳥獣の被害対策を進めること。

③ **自然災害及び雪対策について**

災害に強い町づくりを目指し「自助・共助・公助」を明確に町民に示し、安全・安心の町づくりに早期に取り組むこと。

除雪対策は、現状の支援策に加え町民同士の共助の強化が必要である。未活用の側溝を活用した住民との協働による利便性向上に努めること。

④ **選んでもらえる移住定住の取り組みについて**

町の活力を維持するための重要な施策であることから、冬期間も安心して生活できる環境を整備するなど、移住を望む方に選んでもらえる取り組みを行うこと。

提言3 自い森を舞台とする
「暮らし」づくり

① 観光関係団体の連携強化について
流動人口が増加傾向にあるため、観光関係団体の連携を強化し、実効性のある活動を推進すること。特に要である飯豊リゾートの「泊まる・食べる・買う・体験する」の基本を充実させ、受入体制を早急に確立し黒字化を実現すること。

施設にするとともに、要望の多い温泉機能の確保についても早急に検討すること。

提言4 持続可能な
行財政運営

① 持続可能な医療の提供について
町立病院の経営は、今後の町の財政に大きな影響を与える。外部委託した経営分析の結果を早急に精査し、抜本的な対策を講じることで持続的・安定的な医療の提供に努めること。

② 次期総合センターの整備等について
中心市街地活性化計画の策定にあたっては、関係者との十分な調整を行い、実効性のある内容とすること。また、当該センターの建設にあたっては、幅広い世代に親しまれ利用しやすい

② 安定した行財政運営について
将来的に税収が減少することを想定した事業展開を行う一方で、国県補助金などの特定財源は積極的に活用し、安定した財政運営に努めること。また、国からの地方創生策を待つ受け身の体質から脱却し、自らの積極的な地域創生に取り組むこと。

※詳しくは議会ホームページをご覧ください。

年頭のごあいさつ



小国町議会議員
安部 春美

明けましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、輝かしい初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

当町においては、人口減少や自然災害等多くの課題を抱えています。当議会は町民一人一人の声に耳を傾けながら、その解決に向け全力で取り組んでまいります。

また、令和4年に被災したJ R米坂線の全面復旧に未だ目処が立たない状況を受け、この度、当議会が中心となって「J R米坂線復旧小国期成同盟会」を設立しました。復旧に向けた皆様のご協力をお願いいたします。

今年の干支「辰(たつ)」は、陽の気が動いて活力が旺盛になり大きく成長する年と言われています。あらゆる面で小国町も大きく羽ばたく年になることを願うとともに、皆様のご多幸を心よりご祈念申し上げます。新年のあいさついたします。

温身の郷へ5600万円!

主な補正予算

総務費	白い森ふるさと応援基金積立金	8800万円
	認定こども園施設型給付費	627万9千円
民生費	老人保健施設事業会計負担金	5630万円
	物価高騰対応重点支援 地方創成臨時交付金	4900万円
	病院事業会計負担金	3億円
衛生費	農地利用効率化等支援事業費	300万円
農業振興費	りふれ・梅花皮荘抗菌畳購入費	139万6千円
商工費	町道西田沢頭線門前橋下部工事費	7440万円
土木費	施設備品購入費(可搬式冷房機器4台)	464万円
教育費	修繕費(タブレットPC等)	109万6千円
	小国高校外国短期留学費(3名分)	60万円

12月定例会
あらかまし

12月定例会は、12月6日から12日までの7日間の日程で開催された。補正予算案件14件、条例案件4件、契約案件1件を原案通り可決した。一般質問では7名の議員が町政全般について、町当局の考えを質した。

解説 人事院勧告とは？

公務員の給与・勤務条件などが、社会一般の情勢に適應するように、国会および内閣に対して人事院が行う報告と勧告のこと。それを受けて地方公共団体の職員の給与も見直しされる。例年実施されている。

主な条例の制定

小国町一般職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の設定(人事院勧告により民間との格差解消のため引上げ改定、初任給及び若年層の重点的な引上げを行う)

一般会計補正予算 6億9452万円

病院へ3億円!

▶ 抜本的な改革が望まれる
医療介護施設



陳情

「令和6年度理科教育設備整備費等補助金予算計上についてのお願い」

請願者

東京都千代田区神田小川町
3-28 昇龍館ビル4F
公益社団法人
日本理科教育振興協会
会長 大久保 昇

「医療機関・介護施設への支援の拡充と、患者・利用者の負担を軽減し診療報酬・介護報酬を大幅に引き上げるための意見書の提出に関する陳情書」

請願者

山形県山形市青田南6番28号
山形県医療労働組合連合会
執行委員長 渡辺 勇仁

「辺野古新基地建設の断念と日米地位協定の改定、及び安全保障による米軍基地が必要であるならば、全国に平等で負担するよう求める意見書の提出に関する陳情」

請願者

山形県鶴岡市
水沢字行司免43-13
沖繩に応答する会@山形
代表 漆山 ひとみ

11月6日 第8回 臨時議会

民生費

灯油等購入費事業……………220万円
(5千円から1万円に増額)

災害復旧費

松岡合口頭首工導水路災害復旧工事
……………700万円

契約関係

町道市野々黒沢峠線
道路災害復旧工事請負契約の一部変更
について
契約金額
変更前……………72,600,000円
変更後……………82,982,900円

専決処分

● 町道湯沢長者原線
道路災害復旧工事請負契約の一部変更
更について
● 令和5年度おぐに保育園解体工事請
負契約の一部変更について

「重要な地域の人財」である 老人クラブの果たす役割と 高齢者のフレイル予防の徹底を

ま み や ひ さ え
問宮尚江議員



老人クラブの活動促進を

問宮 老人クラブは地域共生社会を形成するうえで重要な組織である。今後の支援は。

支援を継続する

町長 クラブ活動を通じて、仲間づくりによる孤立防止や地域での支え合いなど重要な役割を担っていただいている。各老人クラブの自主性を尊重しながら加入促進に取り組みでいきたい。

問宮 各クラブ3万円の助成金の積算根拠は。

健康福祉課長 県の老人クラブの活動助成金を考慮したものである。

問宮 ※(一)「老人クラブ」へは老人福祉法において、援助するものと記載されている。昨今の物価高騰の中、その額は妥当か。

健康福祉課長 時代の流れのなかで今後、一

度見直す必要があるものと考えている。

「通いの場」推奨は

問宮 町長の過去の施政方針に※(一)「通いの場」を支援するとあったが、その成果は。

町長 高齢者向けスポーツ、また会員によるボランティア活動等、様々な可能性を探ってきている状況にある。

地域運営に老人クラブ組織の活用を

問宮 「老人クラブ」は、全国に点在する貴重な歴史ある資源である。地域課題を解決する第3セクター的存在として、今後の役割は重要である。地域運営組織という捉え方も検討すべきだ。

「フレイル予防」の徹底を

問宮 「令和5年度健康祭り」における高齢者のフレイル予防の講演から今後の展開は。

予防事業の効果検証を行う

町長 第五期小国町健康増進計画においてフレイル予防の取組を重点事業の一つとしてしている。効果的な事業展開を図る。

若い世代にフレイル教育を

問宮 生活習慣病という観点から若い世代へのフレイル教育は。

健康福祉課長 第五期健康増進計画策定の際のアンケート調査でも認知度が低く、今後、普及啓発に努める。



4年ぶりの高齢者体育大会



高齢者体育大会でのひとコマ

※(一)老人クラブという名称は、(老人福祉法第13条第2項)地方公共団体は、老人の福祉を増進することを目的とする事業の振興を図るとともに、老人クラブその他当該事業を行う者に対して、適当な援助をするように努めなければならない(老人福祉法抜粋)法律として明記されている類まれな団体である。

※(二)「通いの場」：厚生労働省が提唱する事業。高齢者や地域住民が主体となり、社会参加や閉じこもり防止につながる活動の場として捉えている。



● 第二期総合戦略の進捗状況は ● 町長の進退を問う

わた なべ しげ のぶ
渡 邊 重 信 議員

● まちづくりと人口減少対策は

渡邊 第二期総合戦略の進捗について伺う。

持続的発展のための基本目標として示した人口ビジョンの将来展望と合計特殊出生率の推移は。

総合戦略に基づく施策に一定の効果あり

町長 国立社会保障・人口問題研究所の示した人口減少率2.66%を下回る2.08%と抑制している。合計特殊出生率は、目標値を超える2.13に達しているが、コロナ禍もあり0.93まで落ち込んだ。推移を注視し施策を展開していく。

移住・定住の取組は

渡邊 地域間交流の促進の目標は達成している。

るか。

移住者が増えている

町長 地域情報の発信PR、お試し移住体験の支援、おぐにマルチワーク事業の取り組みで若者の移住者が年々増加、目標値の55人を上回る62人、継続的な移住・定住に努める。



様々な人が関わる地域づくり

企業支援は

渡邊 人材確保ができれば企業の撤退もあり得るのでは。

女性新入社員が増

町長 外国人実習生の環境改善や山形県と共同し県外からの移住・就業目的者へ支援金制度も実施。

● 町長の進退を問う

渡邊 第二期総合戦略の総括時期を控え重要な舵取りの時期を迎え、来年度には町長の任期満了となる。町長の進退を伺う。



地域づくりの横展開を期待する

立候補の意思を固めた

町長 新潟山形南部連絡道路と道の駅情報拠点の整備、次期総合センターの早期完成・観光施設の再構築、町内産業に必要な居住環境整備、町立病院及び老人保健施設の再構築、アスモを街なか中核施設としての機能向上に資する取り組み、「小国」を冠した出羽蒸留(株)の支援、宍岩村ポトリの支援、農林漁業の活性化、さらに地域活力の向上など、「親子で住めるまちづくり」を実現するため課題を解決していく必要がある。

町政運営においては「継続性」と「持続性」が重要であり、引き続き舵取り役を担うことが「ふるさと小国」のためになることと判断し、立候補の決意を固めた。

20年後の小国町を考える

こせきかずよし
小関和好議員



高齢者世帯が一千世帯

小関 当町の65歳以上の高齢者世帯が1000世帯を超えたと聞いている。現在、把握されている空き家は100軒強ということだが20年後はどうなっているのか心配である。

高齢者世帯の支援、空き家を管理するためにも機能が低下している地域運営組織の再編と、行政の積極的な取組が急務である。

①解体費の上昇が空き家解体のブレーキとなつているが金銭的支援は無いか。

②後継者のいない高齢者世帯が増えている。施設は、満員であるが対策は。

③雪の心配の無い高齢者住宅の整備が必要ではないか。

④機能が低下する地域運営組織に対する取組は。

①解体費の金銭的支援

町長 解体を検討している方にとっては費用負担が障壁となつている。国の空き家対策事業を活用し、補助制度の創設に向け検討していく。

②施設待機者の対策

町長 施設での介護、在宅介護を望む方はそれぞれ3割程度となつている。

町としては、現在の訪問看護や訪問介護、通所サービスやショートステイなどのサービスの質を高めながら、在宅介護の支援を継続する。

住み慣れた地域で生活できるよう努めている。

③高齢者住宅の整備

町長 今年度、新たな集合住宅の形や整備手

法を主体とした「居住環境づくり調査」を行っている。その結果を踏まえ、町単独でなく、民間の多様な力を生かした整備手法を取り入れ、雪の心配の無い優しい住宅を検討したい。

④地域運営組織の取組

町長 これまで以上に住民同士の共助や地域と行政との協働が、重要になつてくる。地域パートナーシップモデル事業の取組を検証し、地区を拡大し、職員を配置して地域の安定した暮らしづくりに努めていく。



満室のあけぼの高齢者住宅



●地域支援職員の派遣は ●鳥獣被害対策について ●消防団員出動報酬の改定

こばやし よしみ
小林 嘉議員

●職員の地域支援は

小林 協働のまちづくりを推進する「まちづくりパートナーシップモデル事業」と、新たな地区のモデル事業の進捗を聞きたい。

職員が地域に出向き、課題の共有や情報収集に取り組んでいる

町長 モデル地区の北東部地区で「盆踊り」に取り組んだ。

その実現の過程で職員と地域に住む若手の住民の主體的な参画で、地元の建築業者や電気工事業者、老人クラブ、小国高校生などが参加し地域ぐるみの協働が展開された。

今年度は、本町・小坂町を対象地区として、新たなモデルの構築に取り組む。

職員が地域に出向いて、地域との関係性を構築しながら、課題や



老人クラブ「笑和会」の協力



北東部コミュニティー「睦」の仲間たち

情報を共有する環境づくりに取り組む。

●鳥獣被害対策実施隊について

小林 野生動物による人的な被害が発生した。鳥獣被害対策実施隊の活動について聞きたい。

年間を通じて被害防止活動に従事している

町長 実施隊員は町の活動指示により、県及び町が許可する有害鳥獣捕獲活動が主な業務である。

春季ツキノワグマ個体数調整捕獲、ツキノワグマの夏季有害捕獲、ニホンザル、イノシシ、ニホンジカの有害捕獲、その他鳥獣被害の防止活動に、年間を通じて従事している。

小林 4月に発生した猫銃事故補償内容について

事故の公務災害の補償について聞きたい。

補償内容は療養補償と休業補償

町長 補償額はあくまでも予算額であり、療養補償は医療機関に直接支払われる医療費と通院費を合わせて、約1351万円。本人に対する休業補償は約113万円である。



鳥獣被害対策実施隊

●他の質問「消防団員出動報酬改定について」

部活動の地域移行は 継続できるのか

伊藤 弘行 議員



部活動の地域移行に関する課題を整理するため5つの質問を行う

伊藤 令和4年度の反省と今年度への反映は。

遠征時の課題は改善

教育長 指導者確保、遠征の移動手段、学校とYUIとの役割分担の課題があった。遠征時のスクールバス利用のルールは整理した。指導者の確保や費用負担などの課題については、今後も検討していく。

伊藤 令和6年度の実施経費の考え方は。

経費は関係者で検討

教育長 現在は国の委託事業として財源が確保されている。今後は、受益者負担の考え方も

含め関係者全体で検討していきたい。

伊藤 指導者育成はどう考えるか。

文化協会とも連携

教育長 競技に取り組む方が中心となり後進を育成することに期待する。文化面では、部活動の任意加入に伴うニーズの多様化が予想されるので、文化協会とも連携を図り指導者を確保する必要がある。

伊藤 来年度からの、平日の部活動の在り方はどのようになるのか。

部活動は任意加入へ

教育長 生徒数の減少・ニーズの多様化・教職員の働き方改革などを踏まえ、部活動が任意加入となる。現在も部活動以外の競技で

好成绩を収めている生徒もいる。

生徒の健全育成と有意義な生涯学習に繋がるようスポーツ・文化活動の環境整備に努める。

伊藤 生涯学習との繋がりは。

互恵関係の推進を図る

教育長 生きがいを持つことは重要。スポーツや趣味を持ち仲間と交流を深めることは地域の活性化にも繋がっていく。中学時代に入部・文化活動の経験を積むことはその礎を築くものである。その活動に協力いただく大人たちの活動も活気ある地域づくり、町づくりと繋がる。町民総がかりの教育を推進する中で、子ども達と指導者との互恵関係の推

進を図りたい。



令和6年度からは部活動が任意加入へ



町内宿泊環境の整備について

柴田伸也議員

早急な整備を求む

柴田 コロナ禍も今年5月には、「5類」に移行し、賑わいが戻ってきた。

宿泊を伴ったの滞在も増えているが、町中心部・梅花皮荘への宿泊も一部断られる状態が続いている。町はこの状況をどう捉えているのか。

また、対策と宿泊環境の整備は。

早急に検討すべき課題

町長 宿泊業者においては、人材不足や後継者の不足、コロナ禍を経営環境の変化が大きく影響していると思う。

昨今は、一人一部屋での利用が望まれるため、宿泊可能な場所が極めて少ないと認識している。過去の調査においても、町中心部において宿泊施設は不足している。

るとの指摘があった。

町中心部における宿泊環境の整備については、早急に検討すべき課題であり、民間主導での整備意向があれば、実現に向けて支援策を検討したいと考えている。

経済効果が見込まれる

柴田 町中心部での宿泊が多くなれば、飲食店等での経済効果も期待できる。民間の宿泊施設に、何らかの支援はできないか。

働きかけを行う

町長 民間と町が一緒になつて事業をする計画があった。一部でビジネスホテルの建設を考えているところもあり、町にある土地の活用も含め、その計画を各所に働きかけたが、コロナ禍や財源の問題、資材の高騰等で止まっている。この状況の改善と再開に向け、しつ

かりと準備を進めていく。

閉校校舎の有効活用は

柴田 町内では大きなスポーツ大会が開催されているが、宿泊施設

がなく困っている。閉校校舎を利用して合宿等ができないか。

教育振興課長 旧校舎においては、耐震や保健所の関係等で利用するにはハードルが高い。



町中心部に宿泊施設の整備を求む

- 異常気象に伴う
 厳しい農業情勢について
- ふるさと納税制度改正と
 税の使い方について

えん どう かず ひこ
遠藤 和彦 議員



持続可能な農業経営を

●厳しい農業情勢について

遠藤 今年の異常気象により一等米比率と反収が低下した。また物価・原材料の高騰により農家の手取りは大幅に減収した。この状況をどのように捉えているのか。

●厳しい状況と捉える

町長 10月31日現在、県の1等米比率が47・4%、2006年以降、最低となった。本町の「はえぬぎ」については11月29日現在、20%前後という残念な結果になった。農業経営は非常に厳しい状況にある。

●雪若丸の生産拡大を

遠藤 高温・少雨に強い雪若丸の作付けの希望が増加しているが。

農林振興課長 県において「つや姫」「雪若丸」ブランド化戦略推進本部で約500haを追加する。本町においても希望を募る予定。

●税の使い方は

遠藤 返礼品の生産拡大のため、ふるさと納税を使った支援が必要では。

●方策を検討する

町長 寄付金は平成29年度に「小国町白い森ふるさと応援基金」を設置し、町の各種事業に充当している。

●ふるさと納税について

遠藤 この度の見直しはどのように改正されたか。

●返礼品の経費厳格化

町長 経費を寄付金額の5割以下とする「募集適正基準の改正」がなされた。あわせて「地場産品基準の改正」も行われ、基準の厳格化が示された。

令和4年度においてはワカモノプロジェクト推進や児童福祉事務、有害鳥獣被害対策、観光施設管理運営、保小中校一貫教育支援など、1億5780万円を取り崩した。

もう少し広い枠組みで、町の地場産品振興に係る事業者に対し、支援方策を検討する。



JR米坂線 復旧小国期成同盟会設立

令和5年12月8日 おぐに開発総合センター

▶ マスコミの注目度も高い



JR米坂線復旧小国期成同盟会の設立総会が開催され、満場一致で設立されました。米坂線整備促進期成同盟会会長仁科洋一町長によるこれまでの米坂線復旧運動の現況について報告がありました。

町民の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



◀ 赤芝峡の景観を米坂線で



委員会活動

先進事例を視察研修

総務厚生常任委員会視察研修

10月24日～25日

米坂線早期復旧に向け

福島県只見町を視察

只見町役場を訪れ、只見線の復興に向けた取組みをお聞きしました。
復旧のためには並々ならぬ努力と強い意志が必要だと感じました。



次期総合センター建設に向け 福島県矢吹町 多目的施設 「エドット」を視察

施設案内のほか、建設時の町民意見の反映・施設の運営費などについてお聞きしました。



図書館機能の説明を受ける

10月3日

小国高校生と語る会 町の課題解決に取り組み 高校3年生にアドバイス

① 若者の定着 ② 結婚について
③ マタギを増やす
④ 除雪オペレーターを増やす
※12月13日に「白い森みらい探求学」
第3学年発表会が開催されました。

テーマ概要

小国高校生との意見交換会
令和5年10月3日



総務厚生

常任委員会

視察研修

11月10日

白鷹・飯豊、両町の地域運営組織の現状と取り組みについてお聞きしました。

両町とも区割り組織が明確化しており、「地域のことは地域で解決」を、基本理念とした活動が行われていました。



文教産建常任委員会視察研修

11月13日～14日



仙北市はインバウンドグリーンツーリズムの先進地です。

小国町の交流人口拡大に向け 秋田県仙北市を視察

リトリート（心や体を癒す）の取組みをお聞きしました。「秋田アウトドアベース」を設立するなど事業目的・目標が明確で、組織が確立していました。

「道の駅」活性化に向け 秋田県美郷町を視察

（株）モンベルの誘致やロート製菓（株）と町の花であるラベンダーを活用し、共同商品を販売。入れ込み客が伸びているとのこと。

小国町においても特徴ある店づくりや滞在型への転換のための工夫が必要と感じました。



関川村

議会議員 交流会

10月11日

関川村脱炭素先行地域づくり事業課題について聴講してきました。

また、太陽光発電・風力発電などの小電力発電について現場視察を行いました。



風力発電について説明を受ける

がんばってます!!



プロフィール
 氏名 盛田 和子
 住所 小国町大字 小国小坂町
 若泉会 会主
 趣味 おどり

Q 小国町文化協会創立50周年記念「永年貢献表彰」おめでとーございませう。

A ありがとうございます。これ迄、皆様に支えていただいたおかげです。

Q 若泉会の歩みを教えてください。

A 小国町文化協会は昭和48年6月に発足しました。その後若泉会は昭和60年4月に加入しました。当時の若泉会には「婦

人民謡部」「坂町サークル」「床屋サークル」「パーマサークル」など9グループ、50名ほどの会員で、ものすごく活気がありました。



令和6年稽古始めで小国音頭

Q 現在の若泉会の活動について教えてください。

A 会員は10名ほどです。月2回お稽古をしています。

Q 小国音頭、小国小唄の誕生について教えてください。

A 昭和42年の水害後、当時の小国町長 今周一郎氏を中心に、災害復興「山村モデルセンター第

2号」として昭和43年に「おぐに開発総合センター」が建設されました。それまで、小国盆踊りどつき唄などがありましたが、落成式に向け広く町民に歌詞を募集しました。



さいわい荘への慰問の様子(平成21年)

によるものです。

Q 小国音頭の振り付けの物語りを教えてください。

A 小国町は山に囲まれた風光明媚な土地で、その背景を大切にしています。

手で特徴のある山を作り、目の前に飯豊、振り返れば朝日が見える。故郷をしっかりと抱きしめ、大きく飛躍する。大きな山、小さい山、と大切な意味が込められていることを知ってほしいです。

貴重なお話を伺うことが出来ました。小国音頭は町民にとつての宝です。踊りの意味を知り、後世へ繋いでいくべきだと思います。これからもお元気でご活躍をお祈りいたします。(文責 石山)

次は3月定例会です。傍聴にもお申し込みください。

議会に対してのご質問、ご意見をお寄せください。

議会事務局 (62)2448

編集後記

新年を穏やかに迎えたいと思います。

正月気分も抜けて、年度末に向けての動きをされている方もいらっしゃると思いますが、本年も町民のみなさまの思いを町政に届けてまいります。

令和6年も「議会だより」は更に充実した記事をお届けしてまいりますので、お目を通していただきますようお願いいたします。

石山(記)

元日に発生した「能登半島沖地震」で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

発行責任者

議長 安部 春美
 副議長 伊藤 弘行
 委員 長 石山久美子
 委員 柴田 伸也
 委員 間宮 尚江
 委員 小関 和好
 委員 遠藤 和彦

編集 広聴広報常任委員会
 印刷 加藤印刷